

報告

文献にみる看護師の「自己教育力」の研究方法与内容

千頭一世¹⁾、尾原喜美子²⁾

(高知大学大学院総合人間自然科学研究科看護学専攻修士課程¹⁾)

高知大学教育研究部医療学系看護学部門²⁾)

Research method and contents of nurses' "Self-Education Abilities"
— A literature review —

Kazuho Chikami¹⁾ Kimiko Ohara²⁾

(Kochi University Graduate School of synthetic human natural science research for Nursing¹⁾)

Kochi University Research and Education of Nursing Division in medical course²⁾)

要 旨

看護師の「自己教育力」をキーワードに、医学中央雑誌 Web 版を検索し、研究内容を明確にすることを目的に検討を行った。

結果、看護師を対象とした「自己教育力」に関する研究は70件であった。2003年以降は看護系大学の増加などで看護研究への関心が高まってきたことなどもあり、一定数の発表があった。研究内容は、アンケート調査が多く、看護師の「自己教育力」の測定や「自己教育力」を高める要因を明らかにする実態調査が多かった。看護師は早くから自分の理想とする看護像・キャリア観をもつことが重要であり、今後はその課題に向けて支援していただける管理、教育体制づくりが必要となることが示されていた。

キーワード：自己教育力、看護師、文献検討

Abstract

In the keyword, the medicine central magazine Web version was searched for the nurse's "self-educational power", and it inquired for the purpose of clarifying the research contents.

As a result, research on the self-educational power of nurse was 70 affairs. In 2003 and afterwards, concern about nursing research may have increased by the increase in nursing system universities, etc., and there were a fixed number of announcements. The research contents had many questionnaires and there were many surveys which clarify the factor which heightens measurement of the "self-educational power" of a nurse and "self-educational power." It is important for a nurse to have the nursing image and career view made into its ideal from early, and it was shown that management supportable towards the subject and the production of an education system are needed from now on.

Keyword: Self-education abilities, Nurse, Literature examination

受付日：2013年6月30日 受理日：2013年9月27日

【はじめに】

近年、低迷する日本の経済状況等を背景に、学生や一般の社会人を含め看護師を目指す人が増加している。その流れにのり受け皿となる看護系大学や専門学校などの看護基礎教育機関も増加している。

卒業後病院に就職すれば各施設の新人教育など継続教育を受けることになる。医療は日々進歩しており、新しい知識を習得していくことは専門職者として求められていることで、よい医療を患者に提供するために必要なことである。その為、看護師は専門職として生涯働きながら学習を続けていかなければならない。各病院や施設でも、キャリア形成や看護師自身で勉強を行っていくことができるように、研修環境を整えている。

看護師の現任教育・継続教育について文献を検索すると、「自己教育力」という言葉が目につく。「自己教育力」について稲川¹⁾は、「自己教育力というには、自分で自分を戒め、自分で自分を導き、自分で自分を教育していくという力である」と定義しており、梶田²⁾³⁾は、「自己教育力とは自ら学び自己を成長発達させていく力をいう」と定義しており、更に「学ぶ力の育成ということは、教えるという行為あるいは営みを抜きにして考えてはいけない。」「学ぶ力がつくためには、どこかで教えられ鍛え上げられなくてはならない。それによって自らが学ぶ力が身についたうえで初めて、自主的・自立的に学ぶという活動も意味をもってくるのです。」と述べている。

「自己教育力」という言葉が使われ始めたのは1983年11月に文部科学省の中央教育審議会・教育内容等検討小委員会によって「審議経過報告」で示されたのが始まりであり、「主体的に、学ぶ意思、態度、能力」と定義され1992年施行の学習指導要領の柱になっていた。

今回、医療の急激な変化に対応、また高度

化する医療技術や看護技術の提供が求められる看護師にも大切な力である「自己教育力」について現在どの程度研究が進んでおり、看護師自身に重要性が理解されているかを明らかにするために文献研究を実施した。看護師以外を対象とした研究は数多く検索できたが、その中で看護師を対象とした研究を検索し、どういった内容・方法の研究が行われているのかを明らかにした。

【方 法】

1. 対象：医学中央雑誌 Web 版 Ver.5により「期間は全て」とし、『自己教育力』『看護師』のキーワードで検索（2012年5月24日）された原著論文86件
2. 分析方法：得られた原著論文86件の年次推移、研究方法、研究対象の視点から分類し、その中でも看護師を対象とした原著論文（70件）については研究内容を再分類し概要をまとめた。研究内容の分類は研究タイトル、抄録を検討し研究者がその研究の主題と感じた内容に焦点を当て、類似性の高い内容で分類した。

【結果および考察】

1. 文献数と年次推移

医学・看護を対象とした「自己教育力」に関する研究を医中誌 Web より検索すると、原著論文が167件検索された。看護文献に範囲を絞ると148件であった。その中でも今回注目した「自己教育力」と「看護師」をキーワードに検索すると86件であった。

2003年までは研究数は少なく、2004年からは多くなっていた（図1）。年間10件を超えているのは2004年、2007年、2010年の3年であり、2004年は調査した13年間で最も多く17件であった。

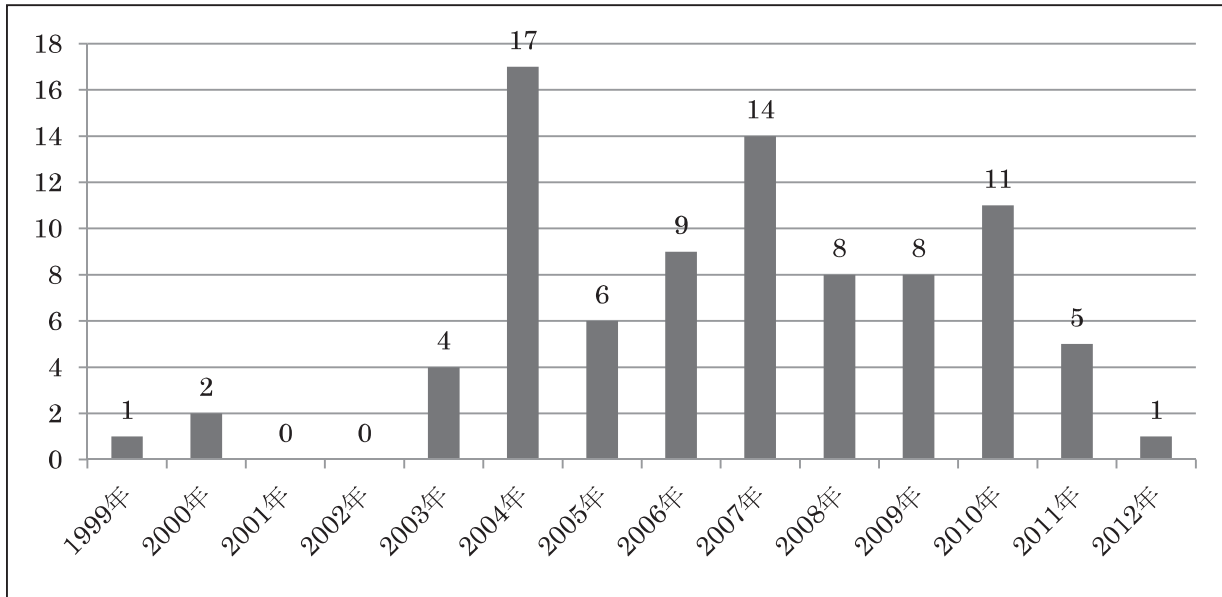


図1. 自己教育力についての原著論文（看護文献）の年別推移（n=86）

看護師を対象とした「自己教育力」の研究が70件と少なかったことは、「自己教育力」が1992年以降に学習指導要領として小学校・中学校・高等学校教育で先に取り組みられてきており、この考え方が大学生や一般の職業・専門職教育においても取り入れられ始めた時期的にもタイムラグがあるのではないかと考える。

2003年以降は一定数の発表があることは、看護系大学の増加などで看護研究への関心が高まってきたことなども理由と考えられる。また2003年に厚生労働省「新たな看護の在り方に関する検討会報告書」において、「療養上の世話」には医師の指示は必要ないが、看護職は医師への相談の要否について適切に判断できる能力・専門性を養う必要があると示され、看護の専門性がもう一度見直されたことも「自己教育力」研究の必要性につながったのではないかと考えられる。

2. 研究方法での分類

86件の原著文献を研究方法別に分類すると最も多いのは量的研究で68件（79%）、次いで質的研究が13件（15%）、文献研究が5件

（6%）であった（図2）。量的研究では、林ら⁴⁾の「職業的キャリア成熟度測定尺度」による調査や、梶田³⁾や西村ら⁵⁾が作成した40項目の調査票「自己教育力測定尺度」を使用した看護師の「自己教育力」の測定や「自己教育力」向上の要因を明らかにする実態調査が多かった。質的研究は13件全例とも半構成的面接法で行われていた。

先行研究により看護師向けに「自己教育力」を測定することができる調査票が作られていることが量的研究を多くしていると考えられ

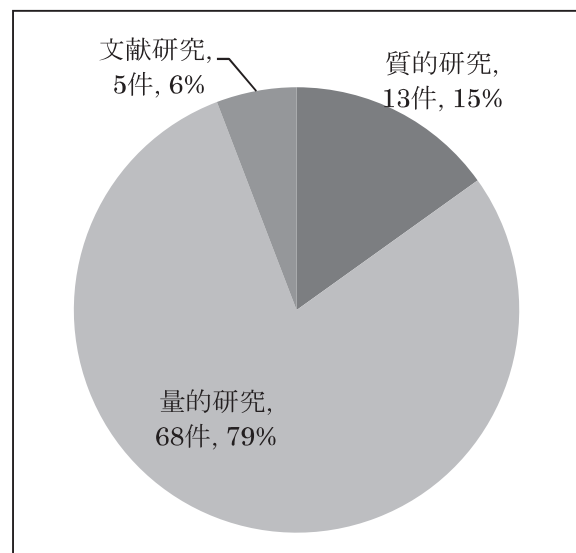


図2. 研究方法からの分類（n=86）

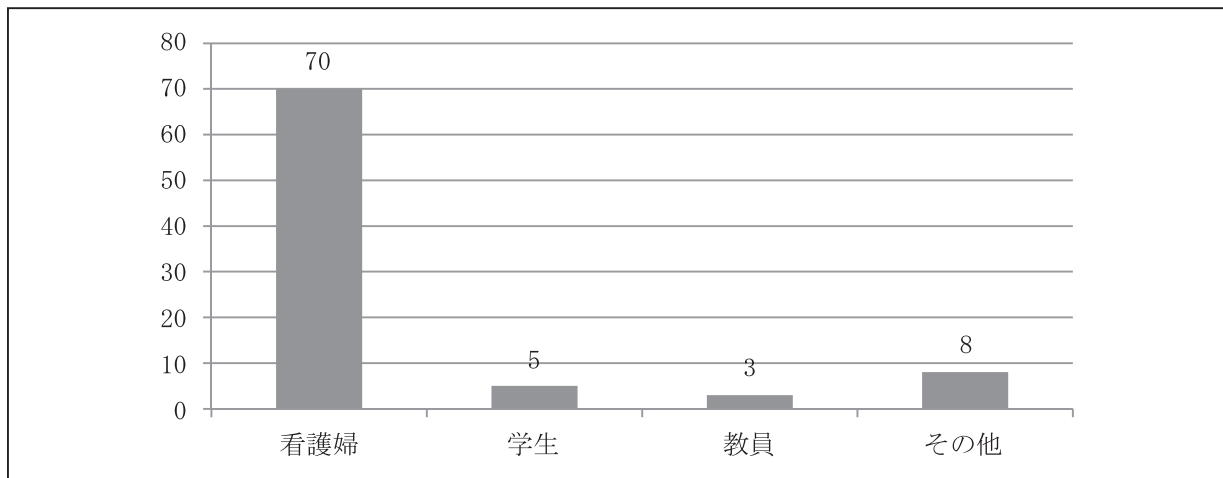


図3. 研究対象の分類 (n=86)

る。研究の多いことが専門職としての看護師に「自己教育力」という力はとても重要で、看護師の「自己教育力」を向上させていくかということを常に検討しているかがうかがえる。

3. 研究対象者別分類

看護師を対象とした研究が70件、学生を対象にした研究が5件、学校の教員を対象とした研究が3件、その他8件に分類でき、その他の内5件は文献研究であった(図3)。

看護師を対象とした研究の内訳は、新人看護師、2年目看護師、中堅看護師、ベテラン・管理職看護師であった。看護師1・2年目とした研究は6件、中堅看護師とした研究は12件であったが、ベテラン看護師や管理者を対象とした研究は3件と少なかった。過半数の49件は経験年数などを区別せずにすべての看護師を対象にしていた。

今後は各年齢や経験年数別に絞られた研究が増えてくると考えられる。管理者を対象とした研究が少なかったことから今後看護管理者を対象とした研究も大切になってくると考えられる。

4. 研究内容の視点からの分類

看護師を対象とした原著論文70件の研究内容は表1のように分類できた。

研究内容の類似性から、①「自己教育力と経験年数」②「自己教育力と教育」③「自己教育力と役割」④「自己教育力とサポート」⑤「自己教育力とラダー」⑥「自己教育力とキャリア」⑦「自己教育力と意欲」⑧「自己教育力と影響要因」⑨「自己教育力と職場満足」⑩「自己教育力と生活」⑪「尺度の検討」⑫「自己教育力と接遇能力」⑬「自己教育力と医師との関係」の13項目に分類することができた。

①「自己教育力と経験年数」は、看護師の経験年数別に「自己教育力」について調査したものや、研究結果から看護師の経験年数別の特徴を明確にしたものなど17件の研究が抽出できた。経験年数では自己教育力に差のない研究が多かった。その中でも、同一部署での経験年数の多さや、病棟での人間関係の良さ、職場に適応できている人は自己教育力が高いという研究報告があった。「自信・プライド・安定性」を高めるためには経験は大切な要素であることが示唆されていた。

②「自己教育力と教育」は、継続教育の必要性の再確認や教育を行うことで「自己教育力」が変化するかといった内容の研究であり、11件の研究が抽出できた。教育を行うことで個人の「自信・プライド・安定

表 1. 看護師の自己教育力に焦点をあてた研究の内容別分類

①自己教育力と経験年数	卒後 2 年目看護師の自律性とその影響要因	増本舞ら	日本看護学会論文集：看護教育（1347-8265）40号、15-17	2010年
	看護師の自己教育力と職場での対人関係との関連 新人から卒後 4 年目への変化	中島すま子ら	日本看護学会論文集：看護管理（1347-8184）34号、181-183	2004年
	A 大学附属病院における看護臨床能力の実態と今後の課題	和泉美枝ら	京都府立医科大学看護学科紀要（1348-5962）20巻、11-19	2010年
	A 大学附属病院を退職した看護師の臨床能力の実態	倉ヶ市絵美佳ら	京都府立医科大学看護学科紀要（1348-5962）21巻、109-115	2011年
	能力開発目標面接制度開始時におけるM病院看護師の自己教育力	山田悦子ら	日本看護学会論文集：看護管理（1347-8184）34号、374-376	2004年
	自己啓発と役割認識に関する経時的特徴	森田美智子ら	日本看護学会論文集：看護管理（1347-8184）34号、175-177	2004年
	看護婦の自己教育力 職位および経験年数別による比較	本藤実千代	日本看護学会論文集：看護管理（1347-8184）30号、156-158	2000年
	看護婦の自己教育力と職場適応に関する研究	中島すま子ら	日本赤十字社幹部看護婦研修所紀要（0289-3851）15号、1-11	2000年
	プリセプターシップにおける対人関係と新人看護婦の自己教育力形成との関連 プリセプターシップ 5 組の半構成的面接を通して	八陣供美	神奈川県立看護教育大学校看護教育研究集録（1341-8661）24号、249-255	1999年
	後輩育成能力と自己教育力の現状から看護教育を考える	藤本和子ら	日本看護学会論文集：看護管理（1347-8184）37号、353-355	2007年
	卒後 2～3 年目看護師の臨床能力の発展に関する研究 卒後 2 年目と 3 年目看護師の臨床能力の向上・促進と経験の特質	谷脇文子	高知女子大学紀要（看護学部編）（1344-8269）55巻、39-50	2006年
	当院新人看護師の主體的行動の自己評価	五島由美子ら	石巻赤十字病院誌（1346-0730）10号、50-55	2004年
	2 年目看護師に効果的な教育支援を行うために 自己教育力の縦断的調査を通じて	河本敦子ら	中国四国地区国立病院機構・国立養成所看護研究学会誌（1880-6619）7 巻、85-88	2012年
	中堅看護師の臨床実践力を高めるために 自己教育力の低い看護師の様相	中島博美ら	日本看護学会論文集：看護管理（1347-8184）34号、207-209	2004年
	新人看護師の自己学習に関する実態	大石美代子	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録（1349-5259）34号、125-131	2009年
A 病院におけるキャリア中期看護師のキャリア成熟度の実態調査 経験年数別成熟度の調査結果の比較から	中村美智子ら	新潟県がんセンター新潟病院看護部看護研究平成21年度、57-64	2010年	
救急初療に働く看護師のコンピテンシーの特徴 1 施設における調査から	作田裕美ら	日本臨床救急医学会雑誌（1345-0581）11巻 1 号、14-20	2008年	
②自己教育力と教育	精神科看護師の自己教育力と看護実践および学習ニードの関連	山根美智子ら	獨協医科大学看護学部紀要（1883-0005）3 巻、11-22	2010年

	看護職者の自己教育力と看護実践の関連 A県の11病院における質問紙調査から	工藤一子	日本看護管理学会誌 (1347-0140) 13巻1号、76-83	2009年
	通信教育前後における看護師の自己教育力およびアセスメント内容の変化	硯川経子ら	日本看護学会論文集：看護総合 (1347-815X) 38号、457-459	2007年
	当院における自己教育力と臨床看護実践能力との関係	大崎妙子ら	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 33号、164-166	2003年
	視覚的教材活用による新人看護師の自己教育力の変化と学習効果	大友裕子ら	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 37号、249-251	2007年
	中高年看護師の自己成長に教育的機会が与える影響	森本弥生ら	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 34号、204-206	2004年
	卒後4～5年目看護師の自己教育力の育成 院内継続教育として開催した事例検討会の効果	木村敦子ら	加古川市民病院誌5号、7-10	2004年
	卒後4～5年目看護師の自己教育力の育成 院内継続教育として開催した事例検討会の効果	木村敦子ら	日本看護学会論文集；看護管理 (1347-8184) 34号、225-227	2004年
	看護師のキャリアアップを支援する院内留学 卒業教育研修における院内留学を企画しての評価	山根理恵子ら	日本看護学会論文集：看護教育 (1347-8265) 34号、166-167	2003年
	主任研修会の取り組み 自ら学ぶ姿勢を目指して	黒崎由利子	出雲市総合医療センター年報 (1881-1566) 25巻、52-57	2009年
	中堅看護職者の学習ニーズと学びのプロセス 社会人学び直しニーズ対応教育プログラムの評価	林真紀子ら	御茶ノ水看護学雑誌 (1881-2112) 2巻1号、11-22	2008年
③自己教育力と役割	先輩看護師の新人教育に対する指導状況調査 先輩看護師の特性の相違による比較	中村美穂ら	香川県看護学会誌 (1884-5673) 2巻、45-48	2011年
	女性の健康を支援する女性外来における看護職の役割 リプロダクティブヘルス/ライツの視点から	大塚寛子ら	宮城大学看護学部紀要 (1344-0233) 13巻1号、1-14	2010年
	プリセプターシップにおける自己教育力の育成	村松恵子	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 37号、246-248	2007年
	チームリーダーの経験と自己教育力との関連	岡田里美	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録 (1349-5259) 29号、146-153	2004年
	看護管理者が認識するエキスパートナースのイメージに関する研究	千明政好ら	群馬保健学紀要 (1343-4179) 26巻、1-10	2006年
	ライフイベントが集中する25～34歳の看護師の自己教育力を高める要因	辻晶子ら	日本看護学会論文集：看護総合 (1347-815X) 38号、112-114	2007年
	病院勤務する看護職の看護力・参画力・自己教育力の取得免許による比較	三島三代子ら	鳥根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要 (1882-4382) 6巻、23-31	2011年
	教育委員の役割遂行と自己教育力の連関	西原詩子ら	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 38号、306-308	2008年
④自己教育力とサポート	臨床看護師の自己教育力とその特性・ソーシャルサポートとの関連	矢ヶ部友美ら	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 39号、336-338	2009年

	中堅看護師におけるメンター（良き相談相手）の実態 メンターと職務満足度および自己教育力の関係	齋藤一美ら	北日本看護学会誌(1344-168X) 9巻2号、8-17	2007年
	採用6～10年目の看護師の自己教育力の現状 役職者としての関わりを考える	渡部房子ら	寿泉堂病院年報(1349-8096) 13巻、58-60	2007年
	看護師の専門性の向上に必要な要素からみたキャリア発達支援システムの課題	石飛悦子ら	日本看護学会論文集：看護管理(1347-8184) 36号、383-385	2006年
	看護師の自己教育力と職場適応に関する研究 新人看護師の職場での対人関係と自己教育力との関連	中島すま子ら	日本看護学会論文集：看護管理(1347-8184) 33号、239-241	2003年
	認定看護管理者教育課程ファーストレベル修了者の研修後の役割認識に影響を及ぼす因子	永井保都美ら	日本看護学会論文集：看護管理(1347-8184) 37号、18-20	2007年
	中堅看護師の自己教育力 自己抑制型行動特性および情緒的支援の関係について	岡田陽子	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録(1349-5259) 31号、1-8	2006年
⑤自己教育力とラダー	透析室クリニカルラダーの評価と自己教育力の変化	鈴木祐子ら	米沢市立病院医学雑誌(0914-5826) 30巻1号、62-64	2011年
	クリニカルラダーと臨床看護師の自己教育力との関連	久保和子ら	徳島赤十字病院医学雑誌(1346-9878) 13巻1号137-141	2008年
	新人看護師のクリニカルラダー「第1段階」の到達度からみた看護基礎教育における看護実践能力を育成するための課題	滝島紀子	川崎市立看護短期大学紀要(1342-1921) 14巻1号、47-54	2009年
	キャリアラダー導入による手術室看護師の自己教育力の変化	田中双美ら	日本看護学会論文集：看護教育[1347-8265] 38号、27-29	2008年
	A病院における看護師の自己教育力とクリニカルラダーの関心度との関係	四宮圭美ら	高松市民病院雑誌(0911-7040) 22巻、65-69	2007年
⑥自己教育力とキャリア	中堅看護師の職業的キャリア成熟度の特徴	西森麻喜子	日本看護学会論文集：看護管理(1347-8184) 40号、165-167	2010年
	科別担当制導入によるスタッフの意識変化	菅直子ら	日本手術医学会誌(1340-8593) 25巻1号、81-83	2004年
	短期大学卒業看護師のキャリア認知と属性との関係	彦惣美穂ら	日本看護学会論文集：看護管理(1347-8184) 34号、201-203	2004年
	プロフェッションフッドからみたA病院看護師の自律性に関する研究	柏木弥生	日本看護学会論文集：看護管理(1347-8184) 37号、361-363	2007年
	中堅看護師のキャリア開発と生涯学習に対する意識と支援について	長井佐知子ら	日本看護協会論文集(1347-8184) 40号、309-311	2010年
⑦自己教育力と意欲	中堅看護師の自己教育力と仕事意欲の関連性 5年目から9年目の中堅看護師を対象として	橋本智裕ら	日本看護学会論文集：看護管理(1347-8184) 40号、162-164	2010年
	モチベーションアップと組織力向上のための「ポートフォリオを活用した目標管理」の検証	狩野京子ら	日本看護学会論文集：看護管理(1347-8184) 37号、373-375	2007年
	看護師の学習動機づけと支援に関する検討	長谷川真美ら	日本看護学会論文集：看護管理(1347-8184) 34号、371-373	2004年

	自己教育力と現任教育に参加する意欲の関係	倉林ちずら	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 34号、9-11	2004年
⑧自己教育力と影響要因	自治体病院の看護師自己教育力と自己教育力に影響を及ぼす要因に関する検討	佐久間雅子ら	日本看護学会論文集：看護教育 (1347-8265) 35号、51-53	2005年
	A病院における中堅看護師の自己教育力 自己教育力の高い看護師と影響要因との関係	福井あけみら	公立豊岡病院紀要 (0916-3549) 19号、19-22	2008年
	中堅看護師の自己教育力を高める要因の分析 教育マニュアルとの関連	高橋裕子ら	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 36号、232-234	2006年
	看護師の自己教育力を高める要因属性・看護場面・出来事から考察して	峯麻紀子ら	日本看護学会論文集：看護総合 (1347-815X) 37号、487-489	2006年
⑨自己教育力と職務満足	看護職者の職務満足度と自己教育力の関連	松本美保子ら	回生病院医学雑誌 (0918-1660) 12巻1号、33-36	2005年
	能力開発目標面接制度導入後1年経過したM病院看護師の自己教育力および職務満足度の変化	来嶋清子ら	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 34号、377-379	2004年
	看護職者の生涯学習 (その1) 自己教育力と今後の課題	西村正子ら	岐阜大学医学部紀要 (0072-4521) 51巻3号、218-223	2003年
⑩自己教育力と生活	25歳～34歳の看護師のライフイベントと自己教育力との関係 看護師のキャリア開発支援に向けて	塩尻桃枝ら	日本看護学会論文集：看護総合 (1347-815X) 37号、496-498	2006年
	看護師の自己教育力にメンタルヘルスが及ぼす影響 看護師への生涯学習支援に向けて	上村浩太ら	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 35号、360-362	2005年
⑪尺度の検討	看護実践能力測定尺度の検討	山出由紀子ら	日本看護協会論文集：看護管理 (1347-8384) 34号、178-180	2004年
	看護師の職業的キャリア成熟度測定尺度の開発	林有学ら	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 36号、380-382	2006年
⑫自己教育力と接遇能力	A病院看護師の接遇能力の現状と自己教育力との関係	片山裕佳子ら	日本看護学会論文集：看護総合 (1347-815X) 39号、60-62	2008年
⑬自己教育力と医師との関係	看護師の職業認識度からみる医師との関係と学習背景	山本美智子ら	日本看護学会論文集：看護教育 (1347-8265) 35号、175-177	2005年

性」を高めることができれば自己教育力の向上につながるとの結果が示されていた。また病院で尊敬する・目指すべき看護師像を持っている人、教育の継続意志の強い人は自己教育力が高いと報告されており、職場環境や教育支援体制を整える必要性も示唆されていた。「自信・プライド・安定性」は研修やグループワークで高まったと報告されていた。教育を受けることで看護師自身が「楽しい・自信になる」と感じること

ができ、これが自己教育力の起点となり自己教育力の発展につながることを明らかにした研究もあった。

③ 「自己教育力と役割」は、新人教育担当・プリセプター、リーダーなどの役割を持つ人の「自己教育力」について述べられた研究で8件抽出できた。「自己教育力」と役割の関係の中で、役割を持っている人の「自己教育力」の程度について研究したものであった。後輩の教育に携わった人、リーダー

- 業務を経験した人は、そうでない人に比べて「自己教育力」が有意に高いという結果が報告されていた。「自己教育力」を高めるための要因として役割を持つことは重要であると示されていた。後輩の「自己教育力」を高めるためには教育経験のあることが大切であると述べられており、「自己教育力」を高めるための要因として教育・指導者役割は重要であると報告されていた。
- ④ 「自己教育力とサポート」は、他者からのサポートの有無が「自己教育力」に関係があるかについて調査した研究で7件抽出できた。7件全てでソーシャルサポート・メンターの存在、情緒的支援、上司の承認、助言者の存在が看護師の自己教育力の向上には必要であると報告されていた。新人看護師では、上司や医師からの承認、患者や家族とのコミュニケーションや看護業務がスムーズに行えることが「自己教育力」と関係していた。中堅看護師では、職場で自分が認められていると感じることが「自己教育力」を高めるためには重要であることが報告されていた。
- ⑤ 「自己教育力とラダー」は、クリニカルラダーを使用している病院の「自己教育力」に関する5件の研究が抽出できた。看護師がラダーで自己の目標を自分で明確にし、それに向かって自己評価などを行いながら看護の役割を認識していくことが結果的に「自己教育力」を高めることにつながっていた。どのようにラダーに意義を感じてもらえるのか、ラダーに自信を持って参加し、自己肯定ができるようになるのかを支援していくことが組織の問題・課題であると報告されていた。
- ⑥ 「自己教育力とキャリア」は、看護師のキャリア認知やキャリア形成に関する内容の研究を行っている5件が抽出できた。看護師のキャリア形成には専門領域での知識・経験や責任感、教育的役割の経験などが重要な要素であること、またキャリアアップの為に継続した学習を続けることが「自己教育力」を高めることにつながるなどが報告されていた。
- ⑦ 「自己教育力と意欲」は、学習の動機づけや職場環境と意欲との関係について書かれている4件の研究が抽出できた。中堅の看護師を対象とした研究では、人間関係など環境調整や仕事意欲を高めることが「自己教育力」を高めることにつながると報告されていた。キャリア発達を促す場合、内的、外的両方の動機がバランスよく意識されることが重要であり、内的動機の意識化のためには、看護師経験1年目から自己のキャリアの方向を見出すことができるような教育的な介入を行うことが必要であると報告されていた。
- ⑧ 「自己教育力と影響要因」では、「自己教育力」に最終的に影響を与える要因が示された4件の研究が抽出できた。仕事上の目標の有無や「職場に相談相手がいる」、「上司から認められている」などの職場環境、「家庭での役割」、「結婚の有無」、「子供の有無」、「介護家族の有無」、「育児・介護のサポートの有無」などの家庭環境などの要因が影響を与え自己教育力を高めると報告されていた。
- ⑨ 「自己教育力と職務満足」は、病院での職務満足度と「自己教育力」との関係を明確にした3件の研究が抽出できた。「自己教育力」を向上させるためには職務満足度を上げることが必要であることが示唆されており、また職務満足を維持するために適宜職場環境を整えていくことも必要であると報告されていた。
- ⑩ 「自己教育力と生活」は、ライフスタイルの変化や家庭環境と「自己教育力」の関係を研究している2件が抽出できた。病院

や病棟は今もまだ女性が多い割合であることからライフスタイルの変化に着目した研究が多いが、ライフスタイルの変化は個人の「自己教育力」に関係しないと報告されていた。またライフスタイルの変化があっても「自己教育力」を保っていくためには家族からのサポートや病院からのサポートが大切であることが示されていた。自己の健康があつて初めて「自己教育力」が成り立つためメンタルヘルスも「自己教育力」を高めるための要因であるという結果があつた。

- ⑪ 「尺度の検討」は2件の研究が抽出された。各病院で使用する「自己教育力」などを測定する尺度の検討を行っていた。
- ⑫ 「自己教育力と接遇能力」は1件の研究が抽出され、「自己教育力」が高い群では看護師の言葉づかいや接遇の技術が高かったと報告されていた。
- ⑬ 「自己教育力と医師との関係」は1件の研究が抽出され、看護師が行うべき仕事をしっかりと理解でき、看護雑誌を読んだり、研修に参加して看護を深めようとしている看護師は医師との関係も良好であるという結果が報告されていた。

「自己教育力」を向上させるための要因が明らかとなっていることから、各施設が教育の方法や内容を見直し、「自己教育力」を向上させるために新たな教育体制作りを行っていかうとしていることがうかがえる。

【ま と め】

- 1、看護学教育課程の変化や、看護師の専門性が問われだしたことに合わせた研究が多くなっている。
- 2、研究方法では量的研究が多く、多数の標本から一般的な「自己教育力」を探る研究

が多かった。

- 3、看護師全般を対象とした研究が多く、対象者を経験年数や役割別などで絞って「自己教育力」を追究した研究は少なかった。
- 4、看護師の「自己教育力」を向上させるための要因を探る研究が多かった。

【引用・参考文献】

- 1. 稲川三郎：父母と教師で子どもの「自己教育力」を育てよう 「ズレ」のない教育. 学陽書房. 55. 1987
- 2. 梶田叡一：自己教育力への教育. 明治図書. 56. 1987
- 3. 梶田叡一：真の自己教育力を育てる たくましい人間教育を. 金子書房. 43-45. 1986
- 4. 林有学・松村喜世子・石飛悦子他：看護師の職業的キャリア成熟度測定尺度の開発. 日本看護学会論文集看護管理 (1347-8184). 36. 380-382. 2006
- 5. 西村千代子・奥野茂代・小林洋子他：看護婦の自己教育力—自己教育力測定尺度の検討—. 日本赤十字社幹部看護婦研修所紀要. 11. 22-39. 1995
- 6. 山下政俊・山崎英則・片上宗二：教育用語辞典. ミネルヴァ書房. 2003
- 7. 東洋・奥田真丈・河野重男：学校教育辞典. 教育出版. 1988
- 8. 倉戸ツギオ・鈴木直人・三根浩：学ぶ教える かかわる 自己教育力をはぐくむ教育行動の心理学. 北大路書房. 1995
- 9. 倉戸ツギオ：発達と学習の心理学 自己教育力をはぐくむ. ナカニシヤ出版. 1994
- 10. 日本看護協会：2006年度改訂版 看護業務基準. 社団法人日本看護協会. 2007
- 11. 森敏昭・清水益治・石田潤：大学生の自己教育力に関する発達の研究—回想的質問紙法による分析—. 広島大学教育学部紀要第一部. 49. 7-14. 2000